

- I 問1 斜面からの垂直抗力の大きさを  $N$  とすると, すべり出す直前の力のつり合いより,  
 斜面平行方向:  $mg\sin\theta_0 = \mu_0 N$       斜面垂直方向:  $mg\cos\theta_0 = N$

$$2 \text{ 式より, } \tan\theta_0 = \mu_0$$

- 問2 斜面平行下向きの加速度を  $a$  とすると, 運動方程式は,

$$ma = mg\sin\theta' - \mu' mg\cos\theta' \quad \therefore a = (\sin\theta' - \mu'\cos\theta')g$$

等加速度運動の式より,

$$\frac{h}{\sin\theta'} = \frac{1}{2}at^2 \quad \therefore t = \sqrt{\frac{2h}{\sin\theta'(\sin\theta' - \mu'\cos\theta')g}}$$

$$v^2 - 0 = 2a \frac{h}{\sin\theta'} \quad \therefore v = \sqrt{\frac{2h(\sin\theta' - \mu'\cos\theta')g}{\sin\theta'}}$$

- 問3 重力のした仕事は, 重力の位置エネルギーの減少量と等しいので,

$$W_1 = mgh$$

垂直抗力と移動の向きが直交しているので, 垂直抗力は仕事をしない。

$$W_2 = 0$$

動摩擦力の向きは移動の向きと逆なので, その仕事は負である。

$$W_3 = -\mu' mg\cos\theta' \times \frac{h}{\sin\theta'} = -\frac{\mu' mgh}{\tan\theta'}$$

- 問4 重心を作用点とする重力の作用線が点Bを通る軸上を通過することより,

$$\tan\theta_1 = \frac{b}{a}$$

このとき, すべり出さない条件は, 問1の結果を利用して,

$$\tan\theta_1 < \mu_1 \quad \therefore \frac{b}{a} < \mu_1$$

- 問5 垂直抗力の作用点は点Cを通る軸上にくるので, 点Cを通る軸のまわりの力のモーメントのつり合いは,

$$F\cos\theta_2 \cdot a = F\sin\theta_2 \cdot b + mg\cos\theta_2 \cdot \frac{b}{2} + mg\sin\theta_2 \cdot \frac{a}{2}$$

これより  $F$  を求めると,

$$F = \frac{a\sin\theta_2 + b\cos\theta_2}{2(a\cos\theta_2 - b\sin\theta_2)} mg$$

- 問6 前問の結果で  $\theta_2 \rightarrow \theta$  としたとき,  $F(>0)$  の解が存在しない条件より,

$$a\cos\theta - b\sin\theta \leq 0 \quad \therefore \tan\theta \geq \frac{a}{b}$$

II 問1 コンデンサー $C_1$ と $C_2$ は、初期電荷0の直列接続だから、それぞれにかかる電圧は、容量に反比例する。

$$C_1 \text{ にかかる電圧: } 2E \times \frac{C_2}{C_1+C_2} = \frac{2C_2}{C_1+C_2} E, \quad C_1 \text{ に蓄えられる電気量: } \frac{2C_1 C_2}{C_1+C_2} E$$

問2 点eの電位を0とし、 $S_2$ を閉じる直前の点fの電位を $V_f$ 、点cの電位を $V_c$ と表すと、

$$V_f - V_c = \left(1 - \frac{2C_1}{C_1+C_2}\right) E = \frac{C_2 - C_1}{C_1+C_2} E > 0 \quad (\because C_2 > C_1)$$

これより、 $S_2$ を閉じた直後の電流は、「fからc」の向きになる。定常状態になるまでに移動した電気量 $\Delta Q$ は、

$$\Delta Q = -C_1 E + C_2 E = (C_2 - C_1) E$$

問3 時刻 $t$ での $C_2$ の容量を $C'_2$ 、そのとき $C_2$ のc側の極板に蓄えられている電気量を $Q'_2$ と表すと、

$$Q'_2 = C'_2 E = \left(C_2 + \frac{2C_2 t}{t_0}\right) E$$

これより、 $S_2$ を点fから点cに向かって流れる電流 $I$ は、

$$I = \frac{\Delta Q'_2}{\Delta t} = \frac{2C_2}{t_0} E$$

問4 外力の仕事は静電エネルギーの変化量に等しいので、

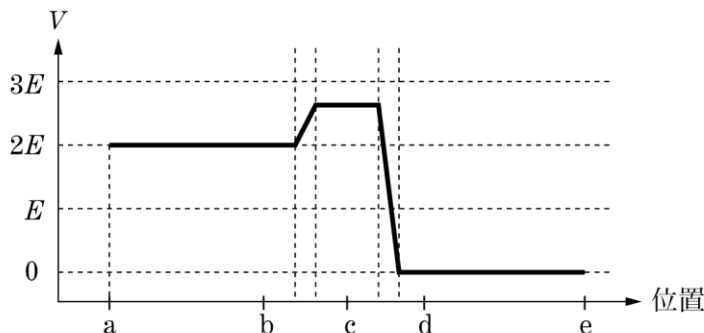
$$\frac{(3C_2 E)^2}{2C_2} - \frac{(3C_2 E)^2}{2(3C_2)} = \frac{3C_2 E^2}{2}$$

問5 点cの電位を $x$ とすると、電荷保存則より、

$$C_2(x-0) + C_1(x-2E) = 3C_2 E \quad \therefore x = \frac{2C_1 + 3C_2}{C_1 + C_2} E$$

$$C_1 \text{ にかかる電圧: } |2E - x| = \frac{C_2}{C_1 + C_2} E, \quad C_2 \text{ にかかる電圧: } x = \frac{2C_1 + 3C_2}{C_1 + C_2} E$$

回路上の点a→b→c→d→eに沿った電位 $V$ の変化



III 問1 屈折の法則より,  $\sin i_0 = n \sin r_0$

問2 BG間の光路長は,  $BD \cos(90^\circ - i_0) = \underline{2d \tan r_0 \sin i_0}$

FD間の光路長は,  $nBD \sin r_0 = n(2d \tan r_0) \sin r_0 = \underline{2d \tan r_0 \sin i_0}$

問3 点Bでの反射で位相が $\pi$ 変化するのので, 点Eで光が弱め合う条件は, 2つの光線の光路差 $\Delta L$ , および $m=0, 1, 2, \dots$ を用いて,

$$\Delta L = (m+1)\lambda$$

$\Delta L = 2nd \cos r_0$  で与えられるので,

$$\underline{2nd \cos r_0 = (m+1)\lambda}$$

問4 点Bでの反射で位相が $\pi$ 変化するのに加え, 点Cでの反射でも位相が $\pi$ 変化するのので, 反射による位相の変化の影響は相殺される。このとき, 点Eで光が弱め合う条件は,

$$\underline{2nd \cos r_0 = \left(m + \frac{1}{2}\right)\lambda} \quad \text{ただし, } m=0, 1, 2, \dots$$

問5 図3の装置では, 2つのレーザー光の光路長, および反射による位相の変化が一致するので, 位相差は0

問6 ガラス容器の内部の圧力変動に伴う光路差変動は,

$$\{1 + (n_1 - 1) \times 2\}L - \{1 + (n_1 - 1) \times 1\}L = (n_1 - 1)L$$

これが, 真空での波長の50倍に相当するので,

$$(n_1 - 1)L = 50\lambda \quad \therefore n_1 - 1 = \frac{50\lambda}{L} = \frac{50 \times 5 \times 10^{-7}}{50 \times 10^{-3}} = \underline{5 \times 10^{-4}}$$